

花見園表札

1998.7/18 ~ 19

天候 晴れ



メンバー

大塚賢一 43 才

中垣早人 29 才

白山登山 7/18-19



今回でこの白山は何回目になるだろう、しかし夏に登るのは始めてであるので・・・普通から考えてみれば少し変ではあるが、私はシーズンオフの秋からが初登山であったのです。

この度は**早人と二人の登山**で、思い起こせば3年前彼と二人で私が初めての登山経験、それもとんでもないルートが私が計画して・・・**西穂高から**

槍までの縦走・・・ほとんどの山やさんが色々な山に登ってから経験するルートを超初心者である私がいきなり計画したのだからとんでもない話であった、そんな彼と今二人でこのピクニック気分の白山街道を踏みしめているのである。**彼も2度目の白山でルンルンに見えたのだが・・・???**今日は、駐車場も満杯だし**超ロングコースの釈迦新道から登ろうと**

なり(**室堂まで約15 km**・・・山では普通の人の足で1 kmを1時間で計算している)別当出会いまで送迎バスに乗らなくてアスファルトの道を歩くこと1 km・・・。

18日

9:00 850 m。天気は快晴。4時に早人宅を出て4時間半で市の越の駐車場現着。今までに無いすごい車の量である、**ざっと200台**はあるか?、おまけに**大型バスが数台**止まっているではないか。この夏期間は交通規制をしているので普段なら別当出会いの駐車場まで行けるのであるが、この車の数を見れば一目瞭然で別当出会いの駐車場が入りきれないのがわかる。私は今まで白山の夏山に来たことが無かったのでこの多さに度肝を抜かれたしである。やはり**誰でも簡単に3000 m弱の山に登れる由縁**であろう。また**この季節は高山植物の花が開花して非常に美しい**とうたわれているのも興味をそそるのである。早人は元気一杯でビデオカメラに緑多いブナ林を納めたり見えもしないウグイスのさえずりや小川のせせらぎを音声録音してルンルンである。

9:44 白峰神社到着。今まで登山道であった





の高い物から低い物へと移り変わりそろそろ小さな高山植物の美しい花たちが目に止まって来たので、シャッターを切る余念がない。

12:30 2005 m、気温 16 度、大休止。**釈迦岳前峰に到着**。登り初めて3時間半。距離にして半分の7.5 kmを来たことになるがここから見る景色は残念ながらガスに見回れて真白である。しかしときおり見せる釈迦岳はすぐそこに見えるのだがここから遙

がいきなり車が通れる林道に出てしまい拍子抜けであった。神社と言っても小さな祠があるだけであるが、今日、明日の無事の登山安全を祈願した。しかし、このコースが初めてなのでこのコースでいいものか少し不安ではあるが地図・高度・方角を確かめれば間違いないのでこのまま行く。

10:00 やっと**釈迦新道の登山口**である。途中、水場があり大変冷たいおいしい水を喉越し一杯にそそいでやる。

11:00 1475 m。**ブナ林の中でフィトンチッドを体一杯に浴びて心地よく汗もかきながら、ピッチも進んで行くが早から早人が私のスピードに付いてこれなくなりもう、少々バテ気味である・・・このところ全然トレーニングしていないと言っていたがこんなに早くバテて来るとは思わなかった・・・テントも私が持って彼より荷重ははるかにあるのに・・・。**

か下ってまた登り返すと言った具合である。早人はもう戦意喪失で「ここで休んで昼やっ!」。しかし、悲惨なことに小さな山頂には礼儀知らずの人間? がいてキジ(野ぐそ)を打っているではないか・・・



か・・・私はお構いなくラーメンを作っていたが、早人が神経質で何ともはや??。

一般ルートである砂防新道から登っていれば我々の足であればも

う南竜が馬場のキャンプサイトに着いているはずである。

この釈迦新道はアプローチが非常に長いせいで登りの登山者には一人も合っていないほどである、途中家族ずれに合つてすぐに追い越したが「どこかここらへんでキャンプを張る所がありませんか?、子供はもう歩け無いと言って・・・」無理もないであろうこんな長くきびしい登山道に連れてくる父親が悪いのだから・・・。結局は途中でテントを張って下山したであろう。山頂よりの下りは数パーティーに出会ったが・・・。

釈迦岳・七倉山に向かって登ったり下ったりで**早人はもうバテバテ**であるがときおり**赤、白、青、黄と咲き乱れている言葉には言い表せない美しい高山植物に出くわす**と活力も湧いてくるのだが、ビデオカメラに納める声も元気がない声である。

1650 m、自然の移り変わりは目に見えてわかるものでブナ林から**アオモリトドマツ**の群生に変わって、**ダケカンパ**の木々も見えてきた。やはり**植物も背**





15:28 2475 m。
ついに七倉山の分岐
点に到着、もうすぐそ
こに大汝峰がガスで
見え隠れしている。し
かし、今日は何百人と
登っているはずなの
だがこのコースはホ

ントに静かなもので高山植物もピカイチである。
一般ルートである砂防新道ではたぶん人・人・人
でごった返しているのであろう。

大汝峰に登る途中で御手水鉢と言う所で水を確
保して大汝あたりに今日はテントを構えて明日の
早朝に穂高連峰からのご来光を拝むつもりの計画
であったが、ここで大変な誤算が生じてしまった
のである。なんと今年は雪が少なく御手水鉢の
水場らしきものがなんと完全に枯れてしまって草
で覆われているではないか！。しかたなく、

16:40 2685 m、
13度。大汝峰の頂上
まで登ったが、ガスに
見回れて何も見えない。しかし、非常に美
しい透明感のある紺
屋ガ池、緑ガ池が見え

て来たので、思わず早人に「あの池の水を汲んで
今日ここでキャンプしよう！」と言ったところ、
とんでもない返事が返ってきたのである「絶対に
アカン、赤痢にでもなったらどないするんや！何
千年前の水かわからへんのに・・・」、私はせっか
く早人がバテていると思って気を利かせたつもり
であったのに・・・、早人は「あんな水を飲むん



17:24 紺屋が池の
周辺である。周りは
人っ子一人いない
シーンとして夕日が
眩しいくらい照りつ
けている、今は白山
(御前峰)に向かって
いる途中でちょうど

お釜の中あたりである、早人は何故か非常に元気
になって「ヤッホー、ヤッホー」の連続で「ごーっ
つい、ここ響くやんか！」で、ものすごい声で叫
んでいたのだが・・・。



17:42 白山山頂、2702 m、9度。下界では
30度を超していると言うのにじっとしていれば寒
いくらいである。しかし、こんなにガスっている
白山は初めてです。室堂周辺もさーっとガスが晴
れた瞬間に見え隠れするだけです。

困った事に、早人がここに来てトンでもない高

山病にかかったらし
く、「もう、アカン、一
歩も進めん！」と言っ
てヘタリこんで、あげ
くの果てにはゲロを
あげるしまつでもう
どうしようもなかつ
たので、私も何も出来
ないしまつでただた

だ回復を待つばかりであった、まだ日があるもの
も時間は刻一刻と過ぎて来るし・・・、砂防新道
から来て室堂へ荷物を置いてもう夕食も済まして
いてここまで登って来ているオバタリアンのほう
がなんぼか元気である、・・・先ほどのお釜でも

「ヤッホー」は何やっ
たんかいなあ？と首
をかしげてしまうの
がはっきり言って私
の本音でした。約1時
間強は休憩してい
であろう。私が早人のカ
ラの1.5Lの水ボトル



やったら室堂まで降
りる」と言い出すしま
つで。時間も17時を
回ったところで天気
も快晴だったのでや
むなく腰を上げたの
だが・・・。



も持って急いで室堂まで下山してそこで水を確保して、まだそこからテント場探しなので、はっきり言って日も暮れてくるので私は焦ってこの雪溪のあるところでい



いやと思いきすぐさまザックから出して設営に当たるが、室堂に日が落ちてゆく夕焼けもおつな物であったが呑気なことと言ってられない、もう日も暮れて20時を回るしまつでヘッドランプをしての設営でした・・・こんな経験をしたのは今だから初めてでした>>>雪山では死んでいるかも知れないなあ・・・と思ったしだいでした。しかしここでも今の気温は5度を下回っているであろう、持ってきた服及び合羽までも着込んでいるしまつである。

早々々と外で白山に乾杯並びに早人の高山病が直りますように・・・で雪溪で冷えたビールで「カンパイ」してジフィーズランチにありついていてふと夜空を見上げると、な、な、なんとものすごい星の数で驚いてしまった、2年前の針ノ木以来である、みごとなミルキーウェイ(天の川)が夜空に輝くその名の通り川のように連なっているのがはっきりと確認できた、カメラやビデオに納められないのが残念である。また何年ぶりかで人工衛星も見えた。早人とあの星は水瓶座・白鳥座と限りない星座の会話が続き、体も冷えてきたのでテントで飲み直しとした。やはり2人だけでテントに入れば3年前に行った穂高連峰を思い出してまた話に花が咲いた。

19日

5:30 充分は睡眠を2人とも取ったようで爽やかな朝を迎えたのはいいが、何と、隠れテントサイトだと思っていたところが、登山道から10mほど離れたところであった、なにやら朝早くからワイワイと人の声がすると思ったら案の定であった。この白山は南竜が馬場以外はテント禁止区域

なので、ルール違反を犯していたので早々にテントだけをたたんで朝食に取りかかればよかったのだが、まだ頭の中が活性されていなくて夜露で濡れているせもあってそのままにしていたものだから、ワンパーティーの夫婦連れがいきなり「コラー、どこでテント張ってのやー！」で、私もいきなりなもので返答が出来ず寝ぼけまなこで何を言って返事をしたかうる覚えであるが、女のほうも輪にかけて「時間は関係ないでしょう？」と言って何やらブツブツと言って「小屋の人に言いつけてやる」と立ち去って行った。

あとから思えば、「なにがコラーや！、いきなり初対面でコラー！は無いやろ！」と早人と言うしまつで何かだんだん腹が立って来たが・・・「アカン、アカン、こんなチンケなことで腹を立てていれば、今の夫婦と同じや！」と思いこの白山の爽やかなでっかい朝日に申し訳なくなって来て「もっとでかい気持ちを持たなアカン！！」と自分に言い聞かせる。

8:00 室堂から南竜へ下山はトンビ岩コースで降りる。このキャンプ場はピークらしく赤・青・黄と所狭しとテントを張っているではないか。室堂の山小屋でも夕べは700人からの登山者が泊まっていたと聞くからものすごい量の間人が登って来ている、私はシーズンオフの春か秋と山スキーにしか来たことが無かったので驚きを隠せない。

早人も高山病も直ったみたいで今朝は少々足の豆が痛いくらいで元気になってやれやれである。

8:50 19度。今日の下山コースはまた長丁場の別山経由の12kmの旅である。しかし、このコースは昨日の釈迦新道コースと違って早や、前には20人ほどの老パーティーが別山方面のつづら折れのコースを元気に登っている。このあたりから見える白山やエコーラインはまた格別でカメラやビデオに納めることに余念がない。

しかし、また登ってはまた降りるの繰り返しであるので登りは登りのみ、下りは下りのみでは無いので長い長いコースであることがわかる。

9:53 2385 m、10度、別山への分かれ道に着くがガスが濃くて風もあるので体感気温は非常に低く感じる、それも我々は半パン、半袖なのだから当然であるが・・・。

9:57 御舎里山ピークに到着。風は非常に強くて視界も悪いので早々にチボリ小屋方面に向けて下山するが、またここがきつい下りでこの逆の登りなら相当こたえるだろうと思う。この下山方面に入れば全くと言っていいほど風も当たらないので今度は暑いくらいである。初心に戻って自然の変化に驚くばかりである。

10:38 チボリ小屋到着、大休止。パン&コーヒータイムにする。ものすごい人数の人が休んでいる、このコースを登って来ているのかと思えばまだまだここからが勝負どころであるので一服つけているのあろう。

1855 m、このあたりまで来るとガスも全く無く、木々の間から降り注ぐ太陽に当たりながらの森の中を散策と言ったところである。

12:56 1000 m。ついに林道から別山への登山道へ入る分岐点に到着。長い長い下りで両足の親指付近に豆を作ってしまった踏ん張るたびに痛かった。

13:15 940 m、22度、駐車場の市ノ瀬到着。今日も約1800 mの高度を下って来たことになる。

市ノ瀬の温泉で山の汗を流し、帰路に着く。姫路着20時であった。なんと姫路は暑いことか・・・
今夜は熱帯夜である。

